

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-16	小学校	社 会	社 会	4 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	社会 404	小学社会 4年		

1. 編修の基本方針

本教科書は、発刊以来、一貫してたいせつに掲げてきた「人間尊重」の理念を基本に、社会と自分自身との関わりで主体的に考え、取り組んでいこうとする子どもたちの姿勢を重視し、支援してきました。その基本理念を本教科書でも引き継ぎ、さらに発展させました。

本教科書は、教育基本法第2条の教育の目標を達成し、上記の基本理念を実現するために、以下の三つを基本方針として編修にあたりました。

基本方針

1

自らの生き方を問い続ける子どもを育てます

～子どもたちが本気で学ぶ社会科の実現～



自分の力で

基本方針

2

みんなとともに考える子どもを育てます

～主体的・対話的で深い学びの実現～



みんなとともに

基本方針

3

未来社会をたくましく生きる子どもを育てます

～主権者として求められる資質や能力の育成～



たくましく生きる



本教科書は、上記の基本方針をより確実に実現するために、各学年ともに1巻(合本)構成としました。

1巻(合本)構成のメリット

1

見通し・振り返り活動を充実させることができます

学年を通しての学習の見通しをもつことで、学年を通じた振り返りの活動が可能となります。また、既習事項の振り返りが容易となり、分類・比較・関連等の思考を用いて捉えることが可能となります。

2

カリキュラムマネジメントへの柔軟な対応が可能となります

資質・能力の育成を保証する手だての一つとして、カリキュラムマネジメントをおこなうことが求められています。1巻(合本)構成にすることで、教科横断的な視点でのカリキュラムの編成がしやすくなります。

1巻(合本)構成とするにあたり、本文用紙には現行本よりも軽い再生紙を採用しました。

1 学びの見通しを子どもと先生が共有できる構成としました。

● ていねいでわかりやすい学年巻頭ページ

- ・ 巻頭にオリエンテーションページを設け、社会科の学び方と学習内容をわかりやすく示しました。
- ・ 4年生の社会科をスタートするにあたって、4年生の社会科の学習でたいせつなことをわかりやすく示しました。また、もくじページでは、各大単元の学習のねらいや内容がひと目でわかるようにするとともに、主事例と置き換えて学習ができる選択事例も明示しました。



(表2～p.1)

健康な暮らしを守る仕事を調べ、そこで働く人々の取り組みやたらしを考えていきましょう。

(大単元の学習内容)

健康な暮らしを守る仕事	22
1 ごみのしよりと活用	24
2 ぐらしをささる水	42
① 下水のしよりと再利用(①-1のせんたく)	58
② わたしたちのぐらしと電気(②-2のせんたく)	62
③ わたしたちのぐらしとガス(②-2のせんたく)	66

(選択事例も明示されたもくじ)

4年生の社会科の学習でたいせつなこと

(4年生の社会科の学習でたいせつなこと) (p.2)

4年生の社会科の学習でたいせつなこと

3年生の社会科では、みんなが生活しているまちの中を調べ、そこで働く人々がみんなの暮らしを支えるためにどんなことをしているのかも、一人一人が生活となり、みんな考えてきました。4年生の「小学社会」では、みんなが生活しているまちを調べ、いろいろな場所や仕事についてきたら、都道府県のなかでぐらしの場所や仕事についてきたら、どれがどんなことをしているのかを考えていきます。

3年生では、調べたり、聞いたりしながら学んできましたが、4年生では、まちから遠くはなれた都道府県のいろいろな場所を訪れたり、調べたりしていろいろなことを学習するからです。

4年生の「小学社会」を学習していくと、人々は社会のなかで、みんなの暮らしを支えるために、ちがいを活かして働いて自分の役割をはたしていることがわかってきます。そして、自分自身が生き生きと生活できるように、自分自身で考えることが大切になります。また、自分の住む都道府県が好きなように、自分で調べたり考えたりすることもできるようになります。

ここでは、みんなが一緒に、「小学社会」とともに、社会科の学習をはじめましょう。

もくじ

わたしたちの暮らし	6
健康な暮らしを守る仕事	22
1 ごみをささる水	24
① 下水のしよりと再利用(①-1のせんたく)	58
② わたしたちのぐらしと電気(②-2のせんたく)	62
③ わたしたちのぐらしとガス(②-2のせんたく)	66
自然災害から人々のを守る活動	70
① 自然災害から人々のを守る活動	72
② 自然災害から人々のを守る活動	80
③ 自然災害から人々のを守る活動	92
④ 自然災害から人々のを守る活動	98
⑤ 自然災害から人々のを守る活動	104
⑥ 自然災害から人々のを守る活動	114
くらしのなかでとらえたい	104
1 わたしたちの暮らしと自然	104
2 わたしたちの暮らしと自然	114
3 わたしたちの暮らしと自然	124
4 わたしたちの暮らしと自然	134
5 わたしたちの暮らしと自然	144
6 わたしたちの暮らしと自然	154
わたしたちの暮らしと自然	164
わたしたちの暮らしと自然	174
わたしたちの暮らしと自然	184
わたしたちの暮らしと自然	194
わたしたちの暮らしと自然	204
わたしたちの暮らしと自然	214
わたしたちの暮らしと自然	224
わたしたちの暮らしと自然	234
わたしたちの暮らしと自然	244
わたしたちの暮らしと自然	254
わたしたちの暮らしと自然	264
わたしたちの暮らしと自然	274
わたしたちの暮らしと自然	284
わたしたちの暮らしと自然	294
わたしたちの暮らしと自然	304

(p.2～p.3)

2 子どもと教材の魅力的な出会いができるように工夫しました。

● さまざまなタイプの教材を選定

- ・ 子どもの驚きや知りたいという知的好奇心を引き出し、疑問や素朴な問いへと導き、「自分事」として捉えさせるさまざまなタイプの教材を選定しました。

● 小単元：「自然災害から命を守る」



(p.72～p.73)

典型的な事例としての主単元

● 選択単元：「火山による災害」



(p.98～p.99)

地域の実態に即して扱える選択単元

● 特設：「かんきょうを守り、地球を守る」



(p.68～p.69)

今日的な教育課題にも対応した特設ページ

1 どの子どもも主体的に学べる問題解決的な学習をめざしました。

(1)「わたし(たち)の問題」、「学習問題」、「さらに考えたい問題」の設定

・子ども一人一人が「わたし(たち)の問題」をもち、追究するなかでより問題意識を発展させていくようすがわかるようにしました。



わたし(たち)の問題

おいた 大分市では、どれぐらいのごみが、出されているのだろう。

見開きページでの素朴な疑問や問題

学習問題

わたしたちの市のごみは、どのように集められ、しよられるのだろう。

学級全体で話し合いたい問題

さらに考えたい問題

ごみをへらすために、どのようにくふうや取り組みがおこなわれているのだろう。

学習問題の解決後に出たさらに考えたい問題

(2)「学習の計画」の設定

・学習の見通しをもつことができるよう、調べたいことや調べ方、まとめ方が書かれています。

学習の計画

<ul style="list-style-type: none"> ●調べること ・分別されたごみは、どのように集められるのか。 ・生ごみは、どのようにしよられるのか。 ・もえるごみやえないごみは、それぞれ、どのようにしよられるのか。 ・ごみをへらすために、どのような取り組みがおこなわれているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●調べ方 ・ごみを集める車を観察したり、しよるすを工場を見学したりする。 ・市役所でパンフレットをもらう。 ・働く人にインタビューしたり、メールや電話などでたずねたりする。 ●まとめ方 ・調べたことをカードに書き、みんなで話し合う。
--	---

(p.27)

2 交流場面を随所に設定し、対話的で深い学びがおこなえるように工夫しました。

●さまざまな交流場面を設定

・追究していくなかで、個が集団と関わりながら問題を解決する具体的な場面を効果的に設定しています。

- 主な交流場面**
- ①疑問から学習問題をつくる場面
 - ②学習問題から予想する場面
 - ③学習計画を立てる場面
 - ④さらに考えたい問題について自分の考えを發表し、みんなで考える場面
 - ⑤まとめた作品をもとに話し合ったりして表現する場面など



1 社会的重点課題に取り組むことができる教科書をめざしました。

(1) 人権・福祉に関わる内容を重点的に取り上げました。



(p.184～p.185)

- ・市に住む外国人への支援活動等を通して多文化共生をめざすまちづくり (p.184～p.185) などを、積極的に取り上げ、身近で現実的な問題として考えさせようとしています。

(2) 伝統・文化を尊重し、郷土や国を愛する心を育む教材を充実させました。



(p.114～p.115)

- ・子どもたちが歴史や文化をたいせつにし、日本人としての自覚をもちながら、我が国の伝統や文化を実感として捉えられるように配慮しました。

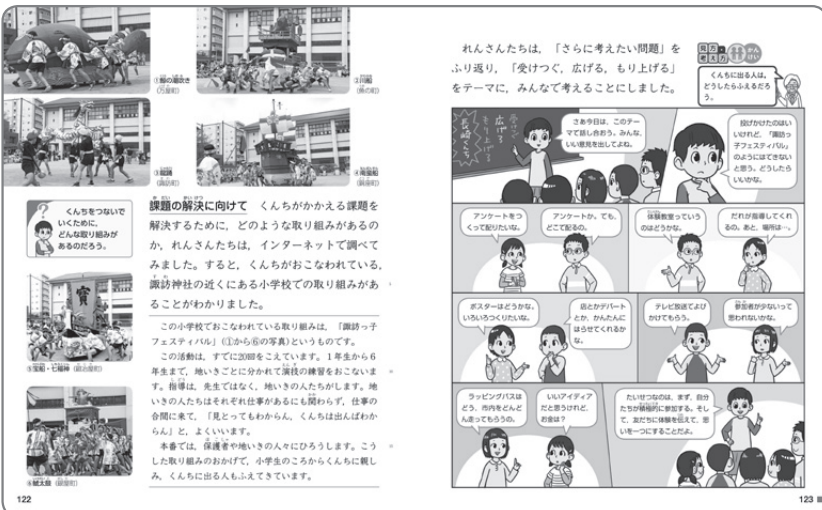
(3) 防災・安全教育に関わる教材を充実させました。

- ・大単元「自然災害から人々を守る活動」(p.70～p.101) において、風水害、地震災害、津波災害、火山災害、雪害災害を扱い、それら災害の規模だけでなく、行政や地域での取り組みを紹介し、「自助、共助、公助」の観点で構成しています。

(4) 社会の持続可能な発展について考える教材を充実させました。

- ・かぎられた水をたいせつに使うために (p.56～p.57)、森林を生かす取り組み (p.176～p.177) などを取り上げ、生活環境や自然環境について、それらの問題についての考えを深めることができる内容となっています。

2 予測困難な未来社会に向かって成長していく自分を実感できる教科書をめざしました。



(p.122～p.123)

- ・よりよい社会を創るために解決していかなければならない課題を把握し、それを解決するには何をどうすればよいのかを子どもたちが考え、選択・判断している場面を具体的に示しました。
- ・大単元「くらしのなかに伝わる願い」(p.122～p.123) では、長崎くんちを受け継いでいくために自分たちにできることを「受けつぐ、広げる、もり上げる」をテーマとしてみんなで考えながら活動ができるようにしています。

2. 対照表

教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、教科書全体を通して、以下のような配慮をしました。

構成・内容		特に意を用いた点と特色	該当箇所
巻頭ページ	オリエンテーション、巻頭メッセージ、もくじ、この教科書の使い方	巻頭ページでは、教材の配列や社会科の学び方、教科書の使い方などを子どもにわかりやすく示しました。	表2～p.5
本文	1 わたしたちの県 1 わたしたちの県のようす	・県のようすについて調べていく学習を通して、それらをはぐくんできた郷土のよさと愛する心を養えるよう配慮しました。(第5号)	p.6～p.19
	2 健康な暮らしを守る仕事 1 ごみのしよりと活用 2 暮らしをささえる水	・かけがえのない生命のたいせつさと環境保全の重要性に目を向け、自分たちにできることを考え、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養えるようにしました。(第3号)(第4号)	p.22～p.67
	3 自然災害から人々を守る活動 1 自然災害から命を守る	・かけがえのない生命のたいせつさと、環境保全の重要性に目を向け、日頃から必要な備えをするなどの活動に参画しようとする態度の育成をはかりました。(第4号)	p.70～p.101
	4 暮らしのなかに伝わる願い 1 わたしたちのまちに残る古い建物 2 わたしたちのまちに伝わる祭り	・地域の文化や伝統の保有や継承に関わる学習をすることで、それらをはぐくんできた郷土を愛する心を養い、自分たちの地域のよさを内外の人たちにも伝えようとする態度を養えるようにしました。(第5号)	p.104～p.123
	5 地いきの発てんにつくした人々 1 原野に水をひく	・地域の開発に関わる人々の働きや工夫、努力に着目し、それらをはぐくんできた郷土のよさと愛する心を養えるよう配慮しました。(第5号)	p.126～p.155
	6 わたしたちの住んでいる県 1 伝統的な工業がさかん地いき 2 土地の特色を生かした地いき 3 世界とつながる地いき	・直接調べることのできない県のようすの学習では、地図や各種資料の活用や収集など、多様な学習方法で、幅広い知識を身につけられるよう配慮しました。(第1号)	p.158～p.191
特設ページ	わたしたちの学びを生かそう	・各単元の問題意識から、子どもたちの興味・関心を発展させた多様な教材や、新しい教育課題に対応した教材を掲載し、創造性と自主性を養えるようにしました。(第2号)	p.20～p.21 p.68～p.69 p.102～p.103 p.124～p.125 p.156～p.157 p.192～p.193

3. 上記以外に特に意を用いた点と特色

(1) 特別支援教育への配慮

・一人一人の子どもが使いやすい教科書をめざして、特別支援教育の観点に配慮しました。すべての子どもたちに見やすいように、カラーユニバーサルデザインに配慮して制作しました。グラフ・地図については、色調や色の組み合わせ、斜線、ドットなどを使用するなど、配慮しました。


(2) 道徳との関連

・地域社会の学習で、多角的・多面的な思考と理解を通して、郷土への誇りと愛情を涵養するとともに、自他の人格の尊重や公正な態度を重視するよう示唆することで、道徳教育の推進に資するよう配慮しました。

(3) 保護者への配慮－家庭、地域との連携

・社会科がどのような教科でどのような学習をするのか、またこの教科書でどのようなことを学ぶのかをオリエンテーションのページなどで保護者にも伝わるように配慮し、学校・家庭・地域の連携を示唆しました。

(4) ICTの活用

・デジタルマーク  を付けた個所では、ICTを活用して学習を効果的に進められるように、弊社ウェブページにコンテンツを用意しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-16	小学校	社 会	社 会	4 年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	社会 404	小学社会 4年		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色

1

問題解決的な学習の過程が見える教科書

～どの子ども本気で学ぶ問題解決的な学習の実現～

本教科書は、子ども一人一人の素朴な問いをたいせつにしなが、学習の問題の質的な広がりや深まりを重視するとともに、集団で問題を追究していくことによって、自らの見方・考え方が高まっていく過程をわかりやすく紙面上で構造的に示すことで、子どもが主体的に学習できるように工夫しました。

学びに向かう意欲や態度、能力などをどの子どもにもつちかっていくことができます。

(1) 学習の問題の質的な広がりや深まりがわかるように工夫しました。



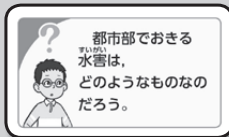
(p.74 ~ p.75)



(p.82 ~ p.83)

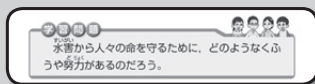
・次の三つの要素をもとに、学習が展開しています。

① わたし(たち)の問題



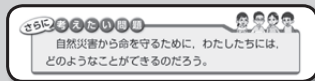
メインキャラクターの子どもが発言する見開きページでの素朴な疑問や問題です。

② 学習問題



一人一人の「わたし(たち)の問題」を話し合うなかで焦点化され、共有される、いわゆる学級全体で話し合いたい問題のことです。

③ さらに考えたい問題



学習問題を解決した後で生まれた、学級全体でさらに話し合ったり、考えたりしたい問題のことです。

(2) 本文を読解しやすいように、学習活動・学習内容・友だちの発言の三つの役割ごとにわかりやすく示しました。

本文の役割

災害にそなえる取り組み
 ほととさんたちは、災害にそなえた取り組みを調べてみました。
 2014(平成26)年、東京都と東京都庁合同による水害対策の訓練がおこなわれました。これは、台風が近づいておきる集中豪雨を想定したものでした。
 また、同じ年の8月には、東京都と国土交通省合同の防災訓練もおこなわれました。自然がもたらすさまざまな災害にそなえる訓練でした。
 災害がおきたときにそなえた、かなり大がかりな訓練だね。
 それでも、災害でけがをする人やなくなる人もいられないよ。防ぐことはできないかな。

(p.84)

●本文 (学習活動)

どのような学習活動をするのかが書かれている文章です。授業の展開や流れをつかむことができます。

●本文 (学習内容)

写真や地図、グラフなどと同じように、疑問を解決するために必要なことが書かれている文章です。

●本文 (友だちの発言)

友だちのわかったこと(友だち)や疑問に思ったこと(わたし)が書かれている文章です。わたしの考えからわたしたちの考えへと促すようにしています。

主体的・対話的で深い学びへと導くポイントを明示し提案する教科書

～社会的事象の見方・考え方を働かせておこなう問題解決的な学習の実現～

社会的事象を調べ、考えたり，選択・判断したりするためには，社会的事象の見方・考え方を働かせることがたいせつです。その手だてを教科書紙面に明示し提案する教科書をめざしました。

- 社会的事象の見方・考え方を働かせて学習の問題を追究・解決する手立てとなる「見方・考え方コーナー」を新設しました。

見方・考え方コーナーの新設

見方・考え方
かんけい

地いきに伝わる祭りは、だれのどのような取り組みでささげられ、続けられてきたのか、これまでの学習をふり返って、考えてみよう。

(p.121)

ものごとを見たり，考えたりするときの三つの目のつけどころについて，アドバイスしています。



わたしたちの住む土地のどこに何があるのか，その広がりや大きさなどに目をつけて，ものごとを見たり，考えたりしてみよう。



昔からみらいへとたえずうつり変わる時間の流れに目をつけて，ものごとを見たり，考えたりしてみよう。



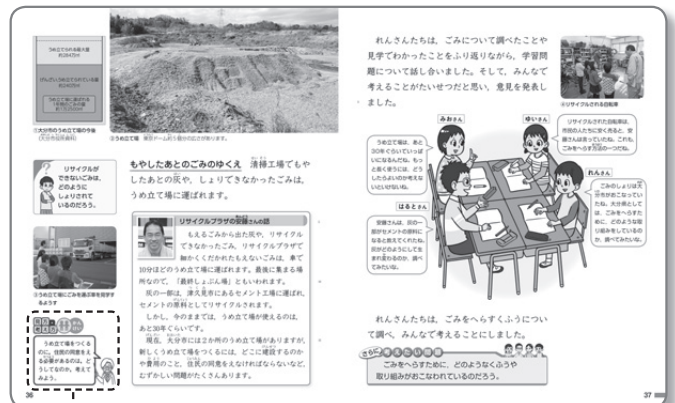
人々の取り組みやはたらき，つながりに目をつけて，ものごとを見たり，考えたりしてみよう。

「見方・考え方コーナー」では，視点を「空間」，「時間」，「関係」の三つの項目とし，それらをわかりやすくアイコンで示しました。

また，子どもたちが社会的事象について，調べ，考えるための視点や方法をこのコーナーで示すことで，これからの学習で子ども一人一人に社会的事象の見方・考え方が養われるようにしています。



(p.14 ~ p.15)



(p.36 ~ p.37)

見方・考え方
空間

交通について調べるときには，人口の分布図も参考にしながら考えてみよう。

(p.14)

・ p.14の「見方・考え方コーナー(空間)」では，位置や空間的な広がりに着目し，岡山県の交通と人口の分布を表した地図を比較したり，関連付けたりするように促しています。

見方・考え方
かんけい

うめ立て場をつくるのに，住民の同意をえる必要があるのは，どうしてなのか，考えてみよう。

(p.36)

・ p.36の「見方・考え方コーナー(かんけい)」では，事象や人々の相互関係に着目し，ごみの最終処分場となる埋立地について，住民の立場に立った多角的な思考ができるように促しています。

社会科で求められる資質・能力が確実に身に付く教科書

～資質・能力を育成するためのコーナーの充実と特設ページの新設～

社会科で育む資質・能力が確実に身につくよう、さまざまな手だてを教科書紙面に明示し提案できるようにしました。

(1) 社会科の学習でたいせつな基礎的・基本的な知識や観察・資料活用力を育成するための学習技能を提示しました。

キーワードコーナーの設定

公助
国や都道府県、市(区)町村やけいさつ、消防などの救助やえん助のこと

共助
近所の人がおたがいに協力して助け合い、地いきを守ること

自助
自分の命は自分で守ること

(p.85)

社会科の基礎・基本を獲得する上でたいせつな社会科用語を「キーワードコーナー」として掲載しています。また、キーワードで例示した社会科用語については、本文中で太字で示しています。

「やってみよう」の設定

自分たちの住むまちに、どこに配水池があるか調べてみよう。(p.46)

真庭市の位置については、地図帳でもかかんにしてみよう。(p.170)

学習や生活の基盤となる知識をくり返し使うよう示唆したり、地図帳で調べたり、作業をしたりして、知識や学習技能の習得などを確かなものにすることができます。

学び方・調べ方コーナーの設定

見る・調べる
電話のしかた

- 聞きたいことは、電話をする前に書き出しておく。
- 相手の電話番号をよくたしかめてから電話をかける。
- あいさつをして、学校名と自分の名前を言う。
- 相手のつづきを聞いてから、質問をはじめる。
- メモを取りながら、質問をする。
- お礼を言ってから電話を切る。

(p.38)

読み取る
グラフの読み取り方

たしかめる

- 表題は何か
- たてじくと横じくは、何をあらわしているか。
- 見つける
- 全体の変化のようすをみる。
- 考える
- 読み取ったことから、ぎもんを出したり、予想を立てたりしてみる。

(p.30)

表現する
すごろくのつくり方

- スタートわくとゴールわくを書く。
- スタートとゴールをつなげるますの数を考えながら書く。
- とちゅうに、大きなますをつくり、写真やイラストを入れる。
- とちどころに、1回休みや何ますもどるかを書く。
- できれば、サイコロやコマも手づくりしておくとうい。

(p.113)

観察力・資料活用力や表現力の基礎を確かなものにすることができます。「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の3項目のうち、「読み取る」については、「たしかめる」「見つける」「考える」の3つのステップを示すことで、確かな資料活用力を身につけることができるように工夫しました。

(2) 子どもの興味・関心を追究するとともに、多様な教材を例示する「わたしたちの学びを生かそう」を新設しました。

今も続いている技術
水と緑の玉川上水

(p.156 ~ p.157)

各単元の問題意識から、子どもたちの興味・関心を発展させた多様な教材や社会的事象の見方・考え方を働かせながら社会的意味を見出すことができる教材、新しい教育課題に対応した教材も多く掲載しています。

京都市の観光と伝統産業

(p.192 ~ p.193)

(教材名)

- 「石川県の交通とおもな産業」(p.20 ~ p.21)
- 「かんきょうを守り、地球を守る」(p.68 ~ p.69)
- 「伊豆諸島の人々を自然災害から守る」(p.102 ~ p.103)
- 「各地に見られる年中行事」(p.124 ~ p.125)
- 「今も続いている技術 水と緑の玉川上水」(p.156 ~ p.157)
- 「京都市の観光と伝統産業」(p.192 ~ p.193)

本教科書の特徴表

基本項目	準 拠 性	教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法第2条の「教育の目標」を達成するため、同条第1項から第5項に示されるような人格の育成をめざした教科書としています。 ・①広い知識・教養と豊かな人間性②人間尊重の精神と自主自律、勤労の精神③公正公平と公共心④自然愛護、環境保全⑤伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度と国際理解、親善の心 	
		学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の社会科の目標、学年目標・内容・内容の取扱いをふまえて、社会的事象を適切に教材化した単元構成としています。 	
内容・系統		公 正 性	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の選定、記述に当たっては、内容が一方的、断定的な見解に偏っていないか、広く受容されているかを十分、吟味・検証しています。 	
		正 確 性	<ul style="list-style-type: none"> ・検定基準等に照らして的確な内容であることを検証しています。 	
		発 達 の 段 階 へ の 配 慮	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの立場からの発言や話し合い、子どものもっている力を最大限に発揮しての調べ活動や表現活動、学習内容の整理の仕方などを示唆しています。その際、人々との出会いやメディアの活用など、作業的・体験的な活動を子どもの発達の段階をふまえて位置づけています。 	
		配 列 ・ 分 量	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自ら見つけ出した問題を解決するために、調べ学習などの具体的な学習活動を通して理解を深め、追究し、気づくとともに、調べたことや考えたことを表現していく過程をわかりやすいように配列しています。 ・学習対象についての情報や資料、追究過程を原則見開き2ページにまとめ、コンパクトに配分しています。 	
		学 習 意 欲 ・ 主 体 的 な 学 習 態 度 の 育 成	<ul style="list-style-type: none"> ・本の大きさをA判として、図版スペースを広く取るとともに、資料や本文の読み取りがしやすいようにページ構成を工夫しています。各単元の展開ページにおいては、生き生きと活動する子どもの姿や働く人々の姿を的確に捉えた写真を掲載し、子どもの共感を呼び、学習意欲を高めるように工夫しています。 ・学級を代表する6名の子どもたちが登場して、学習活動を展開しています。その登場人物の発言や活動の様子が、学習者の追究意欲を喚起するとともに、学習活動の参考となるように配慮しています。 	
		多 様 な 学 習 の 実 現	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容をもとに解決方法を考えたり、他者の考えを振り返り話し合ったりするなど、社会科の特質を生かした主体的・対話的で深い学びをおこなう場面を積極的に取り入れています。 	
		言 語 活 動 の 充 実 へ の 手 立 て	<ul style="list-style-type: none"> ・言語に関する能力は、社会科の学習での思考力・判断力・表現力、さらに学習意欲を支える基盤となるものです。この能力を育成するために、国語科でつちかった言語に関する能力を基本に、知的活動の基盤という観点から、観察や調査・見学などの体験的な学習や、話し合いの場を充実させています。 	
	重 点 課 題		現 代 的 ・ 社 会 的 課 題 へ の 対 応	<ul style="list-style-type: none"> ・人間尊重の精神と生命の尊重を基本に、人権・福祉に関わる内容や防災・安全に関わる内容などの現代的、社会的課題への対応を重視した教材を用意しました。
			伝 統 文 化 の 尊 重 と 国 際 理 解	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化の尊重と国や郷土を愛する態度の育成を重視するとともに、他国の文化にも興味をもたせる教材を用意しました。 ・東京2020オリンピック・パラリンピックに関連した内容を取り上げることで、子どもたちの興味・関心を高めるだけでなく、国際理解・親善に関心を促すようにしています。
			社 会 の 持 続 可 能 な 発 展	<ul style="list-style-type: none"> ・環境、貧困、人権、平和、開発など、社会の持続可能な発展に関わる問題についても、子どもの発達の段階に応じて取り扱いました。
そ の 他		家 庭 学 習 へ の 配 慮	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習のねらいや学び方を保護者へもメッセージとして伝わるよう配慮し、学校、家庭、地域の連携を示唆しました。 	
		他 教 科、 道 徳、 総 合 的 な 学 習 の 時 間 等 と の 関 連	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の内容項目である礼儀や公德心などと関連して、特設された「学び方・調べ方コーナー」で、他者との交流や公共の場での注意事項が具体的に示されています。また、4年の地域の先人の働きや学習は、郷土愛の教材として、道徳の時間に活用することもできます。 ・「わたしたちの学びを生かそう」では、総合的な学習への関連づけとなるような学習内容を掲載しています。それぞれの展開は、各単元で身につけた知識や技能を活用し、子どもが探究する姿を紙面で構造的に示しています。また、新しい教育課題に対応した教材も多く掲載しています。 	

その他	地域教材の活用・開発	・子どもにとって特に身近に感じられる、地域の特色を生かした地域教材の活用、開発にも配慮しました。
	デジタル教材の活用	・別途デジタル教材を提供する体制を整え、学習効果をより高められるよう配慮しました。
	特別支援教育への配慮	・すべての子どもが等しく学べるよう、カラーバリアフリー、ユニバーサルデザインなどを採用し、特別支援教育の観点に配慮しました。 ・拡大教科書を制作します。
	判型	・A B判を採用し、写真やイラストを大きくして子どもの興味・関心をひきやすくしました。
	文字・印刷・製本	・当該学年以上の配当漢字には、すべてに振り仮名をつけました。 ・文字は、子どもに読みやすいよう開発した教科書体を使用しました。 ・本文用紙は十分な強度を有する軽量化した再生紙を使用し、表紙にはコート紙を用いて美感のあふれた外観にする予定です。 ・植物油インキを用いて印刷しました。 ・製本は堅牢なあじろ綴じとし、開きやすくしました。

2. 対照表

教科書の単元	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時間
1 わたしたちの県	(1) ア, イ	p.6~p.19	7
大単元導入	(1) ア, イ	p.6~p.7	1
1.わたしたちの県のように	(1) ア, イ	p.8~p.19	6
2 健康な暮らしを守る仕事	(2) ア, イ	p.22~p.67	22
大単元導入	(2) ア, イ	p.22~p.23	1
1 ごみのしよりと活用	(2) ア, イ	p.24~p.41	11
2 暮らしをささえる水	(2) ア, イ	p.42~p.57	10
選択 下水のしよりと再利用	(2) ア, イ	p.58~p.61	—
選択 わたしたちの暮らしと電気	(2) ア, イ	p.62~p.65	—
選択 わたしたちの暮らしとガス	(2) ア, イ	p.66~p.67	—
3 自然災害から人々を守る活動	(3) ア, イ	p.70~p.101	12
大単元導入	(3) ア, イ	p.70~p.71	1
1 自然災害から命を守る	(3) ア, イ	p.72~p.87	11
選択 地震による災害	(3) ア, イ	p.88~p.91	—
選択 津波による災害	(3) ア, イ	p.92~p.97	—
選択 火山による災害	(3) ア, イ	p.98~p.99	—
選択 雪による災害(雪害)	(3) ア, イ	p.100~p.101	—
4 暮らしのなかに伝わる願い	(4) ア, イ	p.104~p.123	12
大単元導入	(4) ア, イ	p.104~p.105	1
1 わたしたちのまちに残る古い建物	(4) ア, イ	p.106~p.113	5
2 わたしたちのまちに伝わる祭り	(4) ア, イ	p.114~p.123	6
5 地いきの発てんにつくした人々	(4) ア, イ	p.126~p.155	12
大単元導入	(4) ア, イ	p.126~p.127	1
1 原野に水を引く	(4) ア, イ	p.128~p.143	11
選択 産業をゆたかにする	(4) ア, イ	p.144~p.147	—
選択 自然を守る運動	(4) ア, イ	p.148~p.151	—
選択 村の立て直しにつくす	(4) ア, イ	p.152~p.153	—
選択 医りょうにつくす	(4) ア, イ	p.154~p.155	—
6 わたしたちの住んでいる県	(5) ア, イ	p.158~p.191	25
大単元導入	(5) ア, イ	p.158~p.159	1
1 伝統的な工業がさかんな地いき	(5) ア, イ	p.160~p.169	8
2 土地の特色を生かした地いき	(5) ア, イ	p.170~p.179	8
3 世界とつながる地いき	(5) ア, イ	p.180~p.189	8
選択 伝統的な文化を守る	(5) ア, イ	p.190~p.191	—
		計	90